

吉野ヶ里歴史公園

官民連携による整備管理方針



令和4年 6月

佐賀県 県土整備部 まちづくり課

目次

1. 背景	1
2. 目的	1
3. 位置付け	1
4. 公園の新たな整備管理の基本的な考え方	2
4-1. 公園概要	2
4-2. 基本設計の各エリアの整備管理方針	3
(1) 吉野ヶ里歴史公園基本設計検討委員会(H6)	3
(2) 吉野ヶ里歴史公園基本設計検討委員会(H19)	3
4-3. 現状分析	4
4-4. ニーズ調査結果	6
(1) 結果概要	6
(2) (参考)単純集計結果	7
(3) (参考)クロス集計結果	8
4-5. 公園の整備管理の基本的な考え方	9
(1) 吉野ヶ里歴史公園の目指す姿	9
(2) 公園の整備管理の基本的な考え方の方向性	9
5. 官民連携による公園の整備管理方針	10
5-1. サウンディング調査の実施概要	10
5-2. サウンディング調査の結果概要	10
5-3. 官民連携による公園の整備管理方針	11
(1) 今後の整備方針(案)について	11
(2) 事業展開イメージ(案)	12
5-4. 整備管理方針に関する調整事項	13
(1) 夜間営業に対する対応	13
(2) 夜間利用者の駐車場確保	13
(3) 景観・環境配慮事項	13
5-5. 長期的に検討すべき事項	14
(1) 鉄道駅から公園までのアプローチの充実(対鉄道利用者)	14
(2) 東脊振 IC から北口・西口までの案内施設の充実(対自家用車・レンタカー利用者)	14
(3) 西口の駐車場の拡張	14
(4) 屋内遊具の充実(天候に左右されない施設)	14
(5) 屋外遊具の充実(幼児でも遊べる施設)	14
(6) 閑散期への対応(夏場:水遊びやシャワー設備、日陰等, 冬場:温浴施設等)	14
(7) アフターコロナのインバウンド需要への対応(対外国人観光客)	14

1. 背景

吉野ヶ里歴史公園は、我国固有の優れた文化的資産である吉野ヶ里遺跡の保存及び活用を図るため、平成 4 年に閣議決定を受けて設置された国営区域と、国営区域と一体となって遺跡の保全及び公園としての機能の充実を図る目的として設置された県立区域から構成されています。

県立区域は、吉野ヶ里歴史公園の基本テーマである「弥生人の声が聞こえる」に基づき、強く心に残り、歴史ロマンが感じとれる「魅力ある風景の公園」づくりに加え、四季を通じて誰もが一日中気持ちよく楽しく過ごせるよう、多様な催し物や親切な案内などサービスの充実をはかり、「楽しい公園」づくりを目指してきました。

これからは、吉野ヶ里遺跡の魅力を活かしながら、公園施設の利用を通じて、子育て世代をはじめ、幅広い年代の方が楽しむとともに、神埼・吉野ヶ里エリアの観光施設等と連携した利活用に取り組むことで、東部地域の活性化の拠点となる公園を目指します。このような多様なニーズに素早く柔軟に対応していくためには、官民連携による取組を進めていくことが不可欠です。

2. 目的

本公園の魅力をさらに高める新たな官民連携の取組を推進することを目的として、民間活力の導入に向けた方針を整理するものです。

3. 位置付け

本方針は、県立区域における今後の官民連携による整備及び管理について、とりまとめたものです。

4. 公園の新たな整備管理の基本的な考え方

4-1. 公園概要

吉野ヶ里歴史公園の概要は以下の通りです。

施設名称	佐賀県立吉野ヶ里歴史公園
設置年度	平成13年4月21日
所在地	神崎市、神埼郡吉野ヶ里町
面積	都市計画決定面積 約117ha (国営区域 約54ha、県立区域 約63ha) 現在の開設面積 約107ha (国営区域 約53ha、県立区域 約54ha)
設置目的	県立吉野ヶ里歴史公園は、我が国固有の優れた文化的遺産である「吉野ヶ里遺跡」の保存及び活用を図るため、平成4年10月の閣議決定を受け設置された国営公園と、一体となって遺跡の保全及び公園の機能の充実（魅力ある風景・環境づくり、レクリエーション環境の整備等）を図ることを目的として設置。
供用日	1月1日から12月30日まで（1月の第3月曜日及びその翌日を除く）
供用時間	9時から17時まで（6月1日から8月31日までは18時閉園）
主な施設	サービスセンター（西口・北口）、駐車場（東口・西口・北口、臨時） 大型複合遊具、トイレ、休憩所、東屋 等
入園料	中学生以下：無料、大人：460円、シルバー（65歳以上）：200円

整備管理の対象区域は、県立区域の北口エリアと西口エリアであり、県立区域は、公園整備「7つの基本方針」において「魅力ある風景・環境づくり」、「レクリエーション環境の整備」、「地域振興の一翼を担う」ことが期待されています。

北口エリア
(古代の森ゾーン)

西口エリア
(古代の原ゾーン)

東口エリア
(古代の集落ゾーン)

南口エリア
(環境集落ゾーン)

県立区域: 約107ha
(国営 約53ha、県立 約54ha)

北口エリア

古代植物の森・大芝生広場

北口エリア

古代の森体験館

西口エリア

遊びの原(複合遊具)

西口エリア

野外炊事コーナー

東口エリア

南内郭

東口エリア

弥生くらし館

公園整備「7つの基本方針」

- ・遺跡の保存と活用
- ・魅力ある風景・環境づくり
- ・新しい歴史文化の創造
- ・国際交流の拠点として
- ・レクリエーション環境の整備
- ・地域振興の一翼を担う
- ・段階的な整備の推進

特に県立区域に期待される事項

4-2. 基本設計の各エリアの整備管理方針

吉野ヶ里歴史公園基本設計では、各エリアの整備管理方針が次のように位置づけられています。

(1) 吉野ヶ里歴史公園基本設計検討委員会 (H6)

◆西口エリア（古代の原ゾーン）の整備管理方針

- 環壕集落ゾーンから見える当ゾーンは往時、水田や低湿地が広がっていたと考えられる。当ゾーンにおいては、周辺の田園との景観の連続性を保ちながら、環壕集落と一体となった往時の雰囲気が感じられる景観の創出に努める。
- 広々としたオープンスペースや環壕集落への眺望をいかして、風景にひたり、憩い、楽しめる様々なレクリエーション環境を整備する。
- 各施設については、環壕集落からの景観に配慮し、弥生の風景に調和した施設整備を図る。

⇒草地の催し広場（祭りの広場）、ゆったりとした憩いの場、水や森を活かした楽しく遊べる場、展望施設、弥生体験館、疎林の中に遊びの場（遊びの原）西入口には駐車場、案内・便益施設 等



遊びの原



弥生の大野



市の広場

(2) 吉野ヶ里歴史公園基本設計検討委員会 (H19)

◆北口エリア（古代の森ゾーン）の整備管理方針

- 脊振山系と環壕集落をつなぐ丘陵（森）として、また、環壕集落の背景として景観的にも公園の重要な位置を占める。そのため往時の植生に基づく緑化により、豊かな森作りを図るものとする。
- また、森を活かして学び、憩い、ひたり、様々な体験ができる場を整備する。

⇒古代植物の森、古代博物館、体験学習ができる宿泊研修施設、野性的キャンプや弥生食の体験、有用植物の採取等個性的な生活体験ができる施設づくり 等



北口サービスセンター



大芝生広場休憩所



大芝生広場

4-3. 現状分析

公園の新たな整備管理の基本的な考え方を設定するにあたり、本公園のポテンシャルを把握するため、本公園の主な強みと課題等について整理を行いました。

主な強みや主な課題は以下の通りです。

◆主な強み

- ✓ 全国的な知名度を誇る吉野ヶ里遺跡を有する。
- ✓ 福岡県からのアクセスがよい。（西口利用者は福岡県からの来訪者が約 6 割を占める。）
- ✓ 県営エリアはファミリー層の利用が多い。

◆県の取り組み

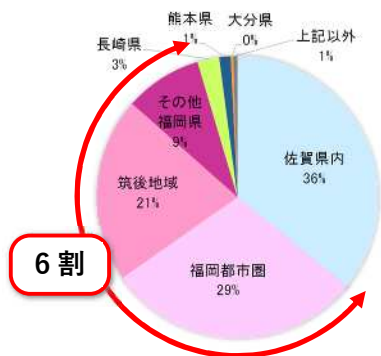
- ✓ 佐賀県では、コロナ禍の中でも感染リスクが少ない大空のもと、多彩な自然景観などを活かして、「観光」や「体験」だけでなく、「働く」、「食べる」、「子育て」など、様々な分野で新しいライフスタイルを提案する取組み「OPEN-AIR 佐賀」を全国に向けて発信している。

◆主な課題

- ✓ 利用エリアが西口、東口に偏り、北口は他エリアに比べ目的となる施設が少ない。
- ✓ 夏場（6～8 月）、冬場（1～2 月）の利用者が少ない。
- ✓ 県外からの来園者が多いが、周辺施設との回遊の仕組みがない。周辺エリアは宿泊施設が少ないこともあり、日帰り観光が主でエリアの滞在時間が短い。

■招待券利用による地域別来訪割合

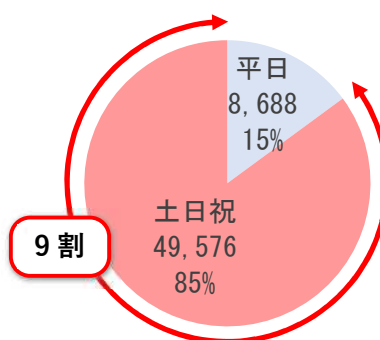
(令和2年)



福岡県からの割合が約6割を占める。

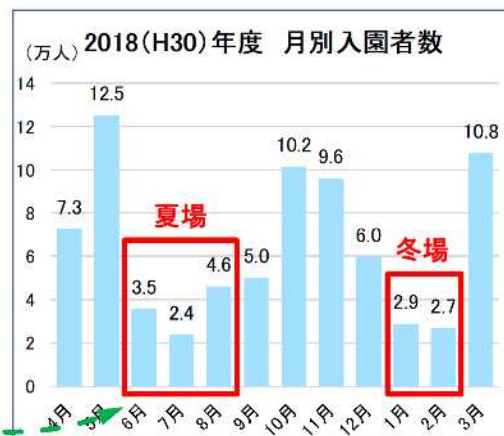
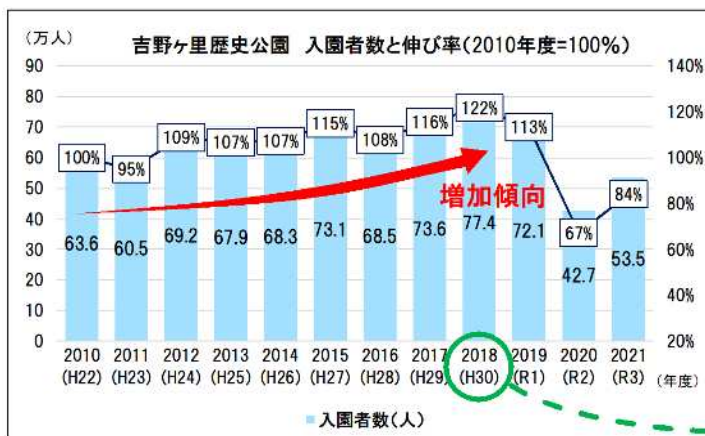
■子育てし大券利用者の平日／休日比較

(平成30年)



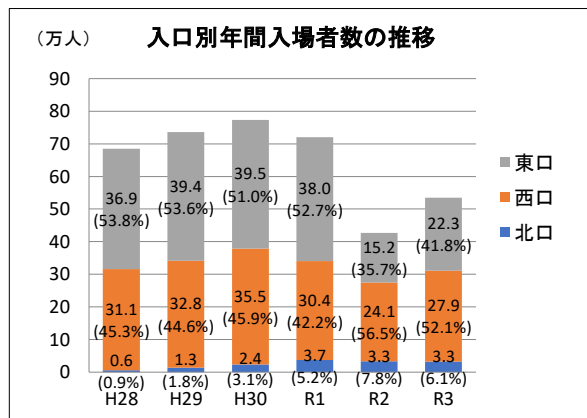
土日祝に子育てし大券を利用して来園するファミリー層が多い。

■入場者数推移

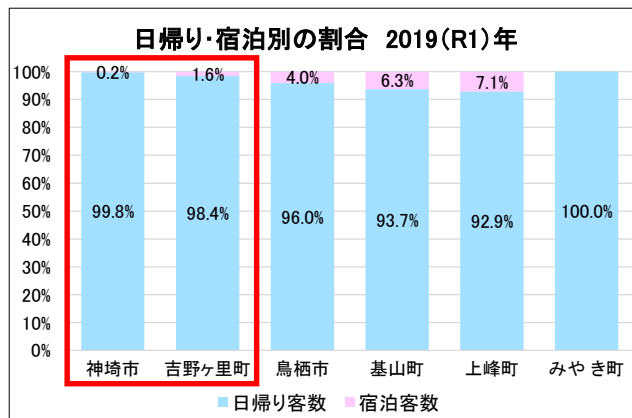


大型連休のある5月や行楽シーズンの10～11月等は月間10万人程度が訪れているが、夏場（6～8月）や冬場（1～2月）の利用者は少ない。

■入口別入場者数の推移



■観光動態



出典)佐賀県観光動態調査

西口、東口からの入場者が大半を占め、北口エリアからの入場者数は年間2～3万人程度にとどまる。

神崎市及び吉野ヶ里町は、観光客の9割以上が日帰り客である。

4-4. ニーズ調査結果

吉野ヶ里歴史公園の今後の整備、管理のあり方を検討するにあたり、公園利用者のニーズの把握や詳細な来訪動向の実態を把握するために利用者アンケート調査をしました。

◆調査概要

対象者条件	10/16（土）及び10/17（日）の2日間における吉野ヶ里歴史公園の利用者
調査日	令和3年10月16日（土）、10月17日（日）【2日間】※西口エリアは無料入園日
調査時間	8：30～17：30【9時間】
調査地点	北口駐車場、西口駐車場、東口駐車場【3箇所】
獲得サンプル数	434 サンプル（10/16：215 サンプル、10/17：219 サンプル） （北口：41 サンプル、西口：249 サンプル、東口：144 サンプル）
その他	補足調査として、SNS（LINE）を活用したアンケート、WEB モニター調査を実施。

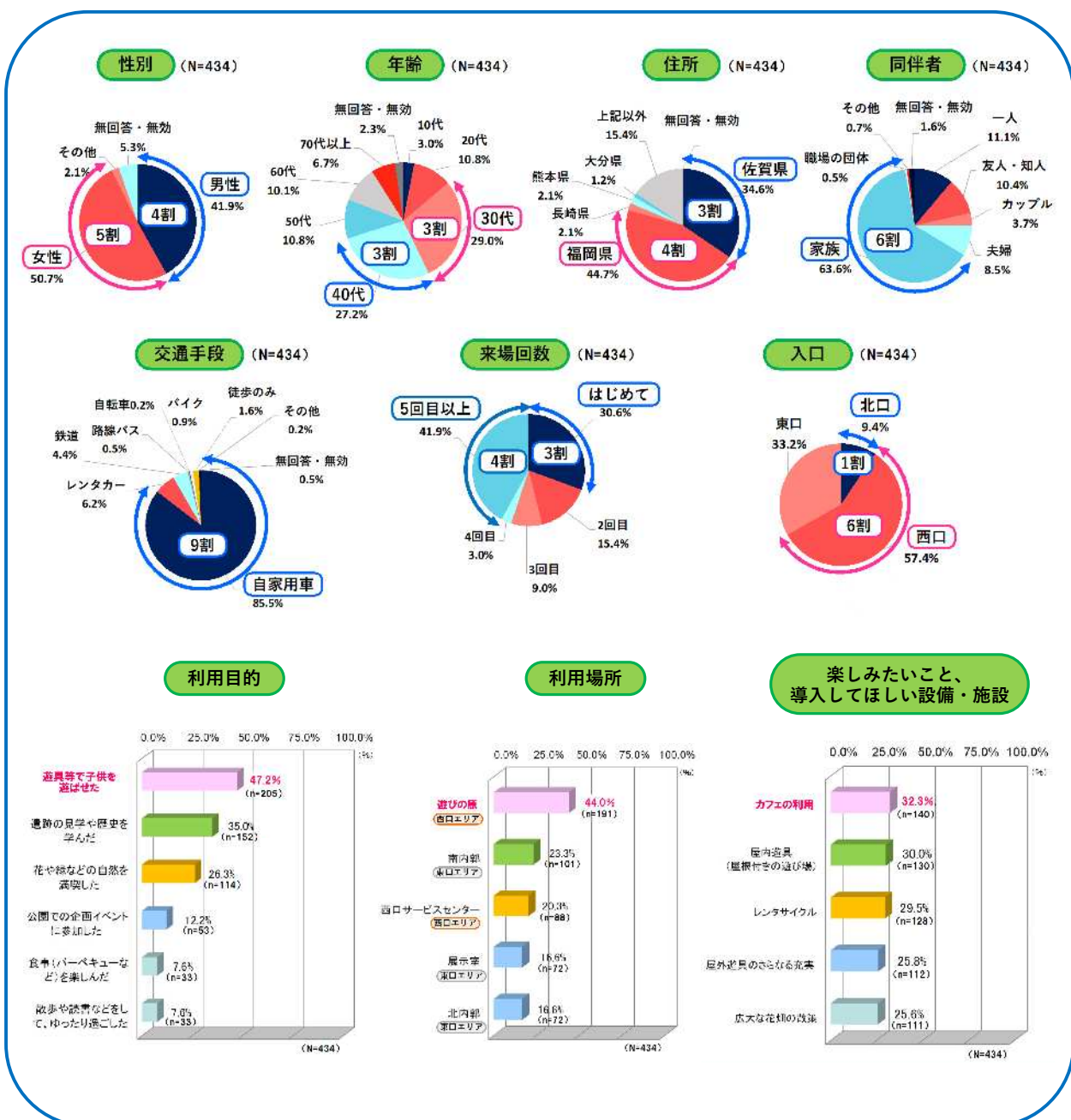
◆調査結果

（1）結果概要

- 来園者は佐賀県内または福岡県からの30～40代の家族連れが多い。
- 来園者の多くは、遊具等で子どもを遊ばせる目的で来園しており、西口エリアの「遊びの原」の利用率が高い。
- 今後、吉野ヶ里歴史公園に導入してほしい設備・施設で最も多いのは、「カフェの利用」で飲食機能のニーズの高さがうかがえる。
- 「屋内遊具」と「屋外遊具」のニーズも高く、さらなる遊具施設の拡大を求める声も多い。
- 有料でも利用したいものについて、入口別にみると、西口エリア利用者は、グランピングやレンタサイクルが多く、家族での利用を想定した項目へのニーズの高さがうかがえる。
- 北口エリア利用者は、「カフェの利用」、「売店の利用」、「レストランの利用」等の飲食・購買施設や、「グランピング」や「デイキャンプ」、「オートキャンプ」等のアウトドア施設へのニーズの高さがうかがえる。

(2) (参考) 単純集計結果

属性	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 年齢は「30代」と「40代」が多く、それぞれ約3割 ✓ 来訪者の居住地は、「福岡県」が約4割、「佐賀県」が約3割 ✓ 「家族」での来訪が約6割 ✓ 入場口は「西口」が約6割、「東口」が約3割、「北口」が約1割 (※調査日は、西口が無料入園日)
利用目的	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「遊具等で子供を遊ばせた」が最多で5割弱 ✓ 「遺跡・歴史」等の学びや「自然・景観」を楽しむ目的も約3割
利用場所	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 西口エリアの「遊びの原」が最多で約4割 ✓ 「南内郭」や「展示室」、「北内郭」等の東口エリアも約2割
楽しみたいこと、導入してほしい設備・施設	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「カフェの利用」が最多で約3割 ✓ 「屋内遊具」、「屋外遊具」等の遊具系のニーズも高く、いずれも約3割
有料でも利用したいもの	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 有料でも利用したい強い要望がある利用者の割合は低い ✓ 「グランピング」と「レンタサイクル」が最多で約1割



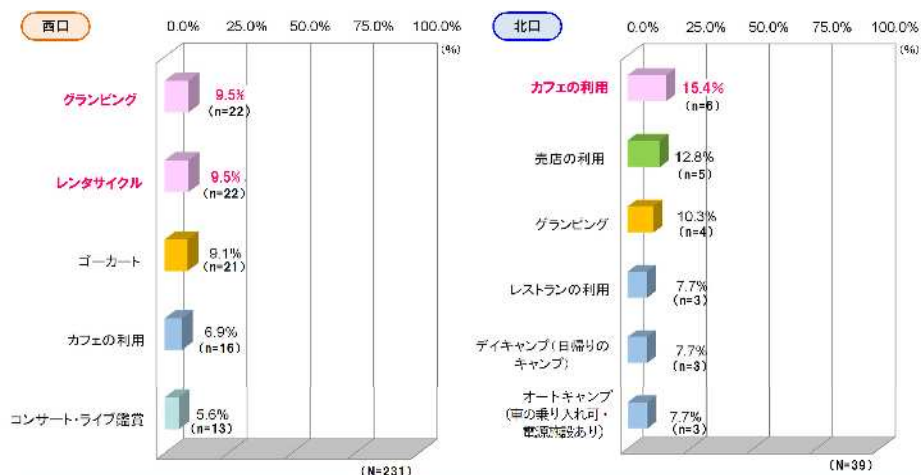
(3) (参考) クロス集計結果

県内・県外別の利用目的	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 県内利用者は、「遊具で子どもを遊ばせた」が最多で約6割 ✓ 県外利用者は、「遺跡の見学や歴史を学んだ」が最多で約5割 ✓ 「自然・景観」を楽しむ利用者は多く、県内・県外利用者ともに2～3割を占める
県内・県外別の楽しみたいこと、導入してほしい設備・施設	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 県内利用者は、「屋内遊具」が最多で約4割 ✓ 県外利用者は、「カフェの利用」が最多で約3割
県内・県外別の有料でも利用したいもの	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 県内利用者は、「グランピング」が最多 ✓ 県外利用者は、「レンタサイクル」が最多
年代別の利用目的	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 10～20代、30～40代（大人のみ）、50代以上は、「遺跡の見学や歴史を学んだ」が最多で4～6割 ✓ 30～40代（子ども同伴）は、「遊具で子どもを遊ばせた」が最多で約8割
年代別の楽しみたいこと、導入してほしい設備・施設	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 10～20代は、「カフェの利用」が多く4割 ✓ 30～40代（子ども同伴）は、「屋内遊具」や「屋外遊具」、「フィールドアスレチック」等の遊具へのニーズが高く、いずれも約4割 ✓ 30～40代（大人のみ）は、「レンタサイクル」が多く約4割 ✓ 50代以上は、「広大な花畑の散策」が最多で3割、自然・景観へのニーズが高い
年代別の有料でも利用したいもの	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 10～20代と30～40代（大人のみ）は、「レンタサイクル」、30～40代（子ども同伴）は、「グランピング」、50代以上は「コンサート・ライブ鑑賞」が最多
入口別の利用目的	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 西口利用者は、「遊具で子どもを遊ばせた」が最多で約7割 ✓ 北口利用者は、「遊具で子どもを遊ばせた」が最多で約3割、次いで「散歩や読書などをして、ゆっくり過ごした」が約2割
入口別の楽しみたいこと、導入してほしい設備・施設	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 西口利用者は、「屋内遊具」や「屋外遊具」、「フィールドアスレチック」等の遊具のニーズが高く、いずれも3～4割を占める ✓ 北口利用者も、「屋内遊具」や「屋外遊具」のニーズは高いが、「カフェの利用」や「売店の利用」等、飲食・購買施設のニーズも高いいずれも約3割
入口別の有料でも利用したいもの	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 西口利用者は、「グランピング」、「レンタサイクル」が最多 ✓ 北口利用者は、「カフェの利用」、「売店の利用」、「レストランの利用」等の飲食・購買施設や、「グランピング」や「デイキャンプ」、「オートキャンプ」等のアウトドア施設が上位

県内・県外別からみた有料でも利用したいと思うもの



入口別からみた有料でも利用したいと思うもの



4-5. 公園の整備管理の基本的な考え方

(1) 吉野ヶ里歴史公園の目指す姿

吉野ヶ里遺跡の魅力を活かしつつ、吉野ヶ里歴史公園ならではの空間で幅広い年代の方が四季を通じて体験できるアウトドア、レクリエーション、憩い機能の充実を図るとともに、地域と連携した利活用により、地域活性化の拠点となる公園を目指します。

(2) 公園の整備管理の基本的な考え方の方向性

① 整備の考え方

自然や弥生の風景との調和に配慮します。

② 現状分析、利用者ニーズを踏まえた空間整備・管理

当公園ならではの空間を活かした宿泊、体験等により更なる魅力向上を図ります。

北口周辺：豊かな古代の森の中で「遊び・学び・泊まる」をテーマとした非日常体験エリアの創出

西口周辺：弥生の風景の中で「遊び・憩い・巡る」の要素の拡充

③ 地域活性化

地域と連携し、回遊性を高め、神埼・吉野ヶ里エリアの魅力向上、地域活性化の拠点を目指します。

④ 「官」と「民」の相互理解と適切な役割分担

民間ノウハウを取り入れるエリアの検討を行います。

⑤ 適切な事業手法の選択

公共公益性と民間の事業成立性のバランスを考慮します。

5. 官民連携による公園の整備管理方針

5-1. サウンディング調査の実施概要

公園の魅力向上や新たな利用者サービスの提供等に関して、民間事業者による事業の実現可能性を探るためにサウンディング調査を実施しました。

また、園内移動手段の確保に関する意見も多いことから、指定管理業務への組込可能性等を考慮し、現在の指定管理者（吉野ヶ里パークマネジメントさが）からも意見聴取を行いました。

表 5-1 サウンディング調査の実施概要

対象業種	アウトドア、飲食、遊具、施設管理	
対象事業者数	10 社（アウトドア関連企業 2 社、飲食関連企業 6 社、遊具関連企業 1 社、施設管理関連企業 1 社）	
事業者 選定理由	アウトドア関連企業	キャンプ場経営の実績有り
	飲食関連企業	Park-PFI 事業の実績有り（福岡県や地元企業含む）
	遊具関連企業	公設民営方式の実績有り
	施設管理関連企業	PFI、Park-PFI 事業の実績有り
調査手法	対面式またはオンラインにより実施。※2 社のみ電話で回答	
調査日程	令和 4 年 1 月 25 日～3 月 2 日	

5-2. サウンディング調査の結果概要

- 歴史公園としての魅力に興味を持っている事業者は多い。
- アウトドア事業者からは、事業性から、北口、西口のエリアにまたがる大規模の展開を期待されている。
- 飲食施設（カフェ）は、公園利用者の季節変動に対応するためのドライブスルー方式等の併用が期待されている。
- 有料の遊び場は、西口の既存遊戯施設とのすみ分けの観点から、対象年齢を未就学児等にした施設を北口に設置すること等が想定される。

5-3. 官民連携による公園の整備管理方針

(1) 今後の整備方針（案）について

① 公園整備の内容

- 吉野ヶ里遺跡の魅力を活かしつつ、吉野ヶ里歴史公園ならではの空間で体験できるアウトドア、レクリエーション、憩い機能を充実させ、公園の利用促進を図ります。
- 地域と連携した利活用により、地域活性化の拠点となる公園を目指します。

② 事業手法

- 官民連携事業としての役割を踏まえ、P－P F I手法を活用した事業手法を基本としながら、事業者の意向も踏まえ、公共と民間の費用負担を考慮しながら整備・維持管理手法を検討します。

③ 公園施設管理方法

- 施設管理については、民間事業者の収益性の観点から、自立した運営を求めていくものとするが、指定管理者による管理や事業者への委託も検討します。

(2) 事業展開イメージ（案）

北口エリア、西口エリア及びエリア連携の事業展開のイメージは次の通りです。このイメージをもとに、公園整備、事業手法、公園施設管理方法の具体的な内容を検討します。

◆北口エリア

- ✓ 豊かな古代の森の中で「遊び・学び・泊まる」をテーマとした非日常体験エリアの創出

◆西口エリア

- ✓ 弥生の風景の中で「遊び・憩い・巡る」の要素の拡充
(市の広場、弥生の大野)

◆エリア間連携

- ✓ 市の広場周辺に拠点機能を新設
- ✓ エリア間の移動手段の充実



図 5-1 事業展開イメージ

5-4. 整備管理方針に関する調整事項

整備管理方針に関する調整事項として、以下の3点の対応が必要となります。

(1) 夜間営業に対する対応

- 夜間の安全対策、夜間のエリア分け等に関する検討が必要です。
(夜間、宿泊者が国営エリアへ進入することの是非及び安全対策に関する調整)
- 夜間照明等についての設置の要否。遺跡景観との調和した照明の検討が必要です。

(2) 夜間利用者の駐車場確保

- 園内等の専用駐車場の設置について検討が必要です。
- オートキャンプの場合、園内への乗り入れルート of 整備（舗装変更等）が必要です。

(3) 景観・環境配慮事項

- 建物の高さや意匠等の制約に関する民間事業者への条件提示が必要です。
- 植生等への配慮が必要です。

5-5. 長期的に検討すべき事項

長期的に検討すべき事項は、すぐに実現することが困難であるものの、長期的に課題を解決しながら実現を目指す事項であり、今後も継続的に検討していきます。

(1) 鉄道駅から公園までのアプローチの充実（対鉄道利用者）

➤ 鉄道駅から公園までの道のりが単調であり、公園まで行きたくなるような仕掛けが必要です。

(2) 東脊振 IC から北口・西口までの案内施設の充実（対自家用車・レンタカー利用者）

➤ 高速道路の IC から公園ゲートまで、より分かりやすい案内が必要です。

(3) 西口の駐車場の拡張

➤ イベント時や無料入園日における駐車場容量不足への対応が必要です。

(4) 屋内遊具の充実（天候に左右されない施設）

➤ 雨天時でも来園してもらえる遊具施設が必要です。

(5) 屋外遊具の充実（幼児でも遊べる施設）

➤ 小さな子ども（幼児）でも安心して遊べる遊具施設が必要です。

(6) 閑散期への対応（夏場：水遊びやシャワー設備、日陰等、冬場：温浴施設等）

➤ 夏場や冬場でも来園してもらえる設備が必要です。

(7) アフターコロナのインバウンド需要への対応（対外国人観光客）

➤ コロナ収束後の外国人観光客への受け入れ態勢が必要です。